

沈黙の果実は祈りである
祈りの果実は信仰である
信仰の果実は愛である
愛の果実は奉仕である
奉仕の果実は平和である

—————マザー・テレサ

「愛と奉仕」という安直な言葉が巷に溢れかえっている当今、私たちは、真の意味でのシンプルな日々の実践者——マザー・テレサの前では、顔を赤らめざるを得ないと思います。9月10日は、彼女が、ダージリンに向かう列車の中で『もっとも貧しい人々のために働きなさい』と、神より啓示を与えられた日です。カルカッタの汚濁に囚われず、貧しさと飢えのなかで生まれては死にゆく仲間たちのために一生を捧げた、20世紀最後に蘇えった聖女テレサ。キリストの僕(しもべ)であるマザー・テレサの活動は、なぜか、釈迦の過去世の姿である常不軽(じょうふきょう)菩薩*の「但行礼拝」を髣髴(ほうふつ)とさせます。生きとし生けるものたちに“ひかり”をみつづけた生涯は、輝きに満ちています。言葉ではなく行動で、永遠の生命につながる目を持って、ゆくてを指し示す、現代における真の奉仕者であるテレサの、謙虚に、へりくだった、下座(げざ)につく生き方に遭遇し得たことに、ただただ、頭が下がる思いで一杯です。

心より、無限の無限の感謝を捧げます。

————— 05/09/23 パウワウおじさん

*法華経の第二十番目にあるお経が、常不軽菩薩品です。そこには、瓦や石を投げつけられ、木や杖で殴りかかれても、すべての人々を菩薩として礼拝し続けた常不軽菩薩の姿が活写されている。